

障がい児等支援連携体制整備事業について

令和3・4年度取組の結果報告

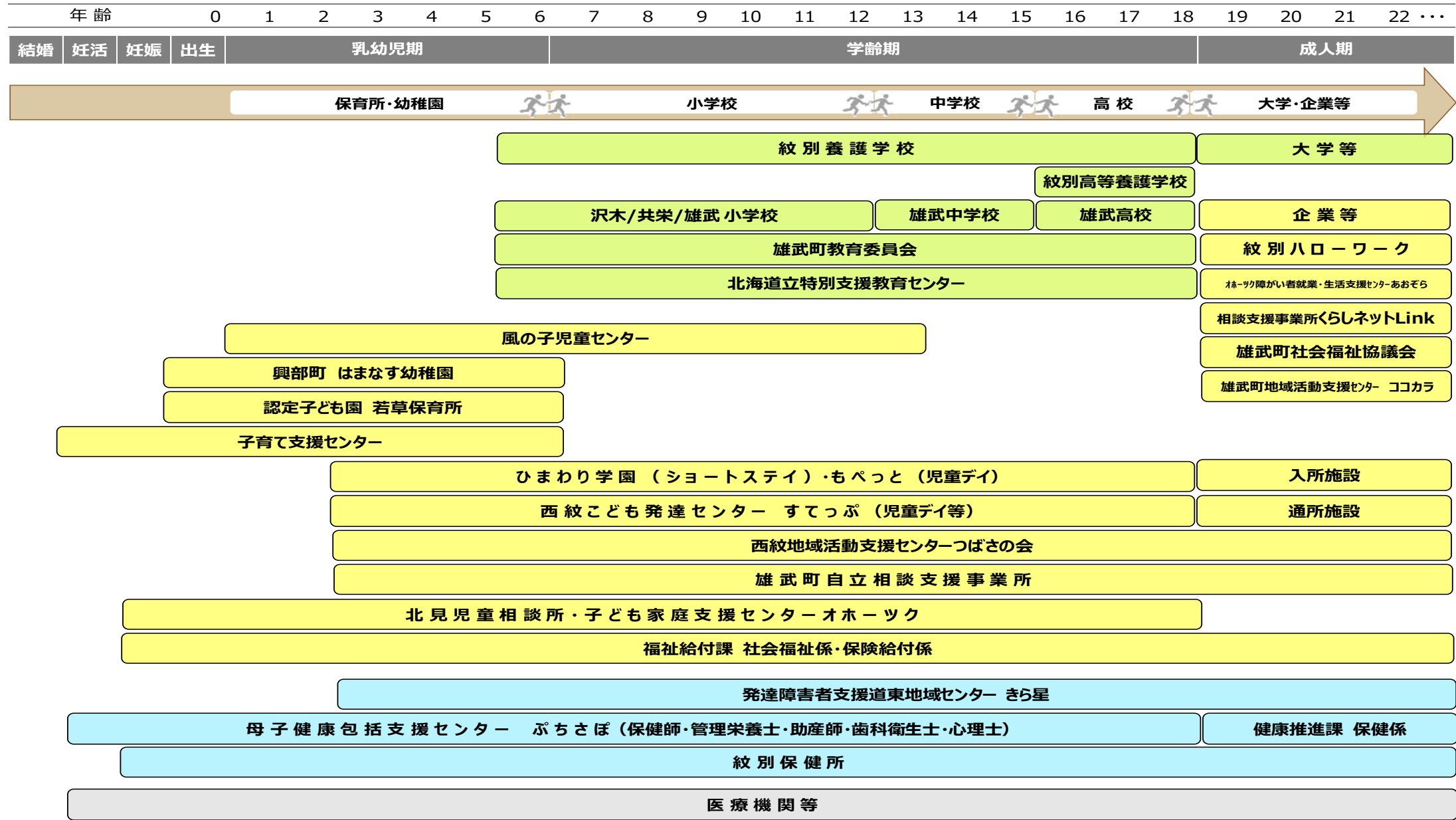
雄武町健康推進課

報告内容

- 1 取組開始時点での発達支援の状況
- 2 保健師として感じていた課題
- 3 地域の支援連携体制における課題の明確化
- 4 取組の内容



1 発達支援の状況



1 発達支援の状況

～就学前の支援～

- ・ 乳幼児健康診査（小児科医師、歯科医師、歯科衛生士、公認心理師、発達支援センター、保育士、管理栄養士、保健師）
※0歳3～4か月、9～10か月、1歳6か月、3歳6か月、5歳、その他
- ・ 専門相談（言語聴覚士、作業療法士、発達障害者支援道東地域センター）
- ・ 心理相談（公認心理師）NEW
- ・ 巡回児童相談（北見児童相談所）
- ・ 巡回教育相談（北海道立特別支援教育センター）
- ・ 療育、医療との連携（利用・受診の調整、情報共有等）
- ・ 保育所・幼稚園訪問（教育委員会、町内小学校、保育所・幼稚園、保健師）
- ・ 就学時健診、教育相談（教育委員会、町内小学校、保育所・幼稚園、保健師）
- ・ 個別教育相談（教育委員会、町内小学校、保健師）
- ・ 教育支援委員会、特別支援教育連携協議会、専門部会
- ・ 引継ぎの場（町内小学校、保育所・幼稚園、保健師）



就学前の取組
※情報を学校に引継ぎ



学校と一緒に取組

2 保健師として感じていた課題

★教育委員会や福祉担当職員、学校の教員は異動がありメンバーが変わる。

➡ 人が変わっても継続可能な支援体制、仕組みづくり

★就学後の支援は学校が中心となり、保健分野から対象者の様子が見えにくくなりがち。

➡ 就学後も継続して情報を共有できる連携体制の強化

★児童の状態（検査結果等）は情報として引き継がれやすいが、かかわり方や環境の工夫など支援方法が具体的に引き継がれにくい。

➡ 一貫した支援のために効果的な情報共有

障がい児等支援連携体制
整備事業を活用してみよう！



3 地域の支援連携体制における課題の明確化

💡 Q-SACCSシート^①の活用

⇒ 保育所、小中学校でそれぞれ作成し、
どの部分の課題に地域として優先的に取り組むべきかの明確化を図りました。

雄武町	0～6歳	継時的インターフェース (引き継ぎ)	7～12歳	継時的インターフェース (引き継ぎ)	13～15歳	継時的インターフェース (引き継ぎ)	15～18歳
レベルⅠ (毎日) 日常生活水準	ア ○個別に配慮した保育の展開 個別の発達段階や得意、不得意に配慮した関わりを心がけているが、マンパワー不足による業務負担が大きい。 ○保護者との情報共有 連絡帳、送迎時のやりとり等共有したい内容や保護者のタイプに合わせて方法や伝え方を工夫している。 保護者の特性や精神面に配慮すると、どこまで伝えて良いのか、探り探りの対応で難しさを感じることもある。	カ ○小学校への引き継ぎ ・小学校が求めている情報がわからないので、何を伝えればよいかわからない意味。 ・各家庭での考え方や子どもとの向き合い方が違う中、悩んでいるが集団生活に目を向けた関わりをもっている。それらを就時健診前のシート提出や専門部会での情報共有、保育要録の提出、年度末に学校と対面で申し送りを行うことで連携と考えている。 (個別の状況を無視して無理やり頑張らせるようなことはしたくないが、入学後のギャップで子どもたちが困るであろうことを思うとどこを指すべきかわからない) ○就学児童引き継ぎ ・口頭のみで行われている。 ・保育士、新1年担任、コーディネーター、保健師、(特別支援担任)が同席。 ・各々メモをとるが、学校には記録が残っていない。 ・小学校で求められる姿(生活・学習面)と、保育所での姿にズレがあり、入学してから支援を必要とする児童も多い。 ・小学校から保育所に知りたい情報の項目を伝え、それに対しての資料を作成してもらえると、入学後に活用できるのではないかと思う。 (10分以上座っていられるか・口をはさまずに最後まで話を聞けることができるか・指示を聞いて行動ができるか・交友関係の構築面・保護者など) ○保育所訪問、幼稚園訪問 ○就学健診(知能検査、視力・聴力検査) ○就学時健康教育相談 ○教育委員会 ○雄武町特別支援教育連携協議会専門部会(年4回)	ク ○校内支援委員会 ○校内就学支援委員会 ○個別ケース会議 ○雄教振特別支援部会 □ことばの教室 ○児童センターとの情報交流(年4回)	ス ○進学児童引き継ぎ ・資料を作成し、それをもとに対面で引き継ぎを行っている。 ・特別支援在籍児童については、個別に資料(困り感や有効だった手立てなど)を作成している。 ・どのような引き継ぎだと中学校で活用できるのかを教えてほしい。(知りたい情報は何?) ・学力、生活、特性、家庭等を要録、文書等で伝える(担任・養護教諭・特支援担任)	ソ ○発達アンケート(担任へ) ○特別支援委員会(支援対象の決定) ○個別の教育支援計画の作成(通常学級生徒は個別の指導計画のみ) ○半期ごとの評価と保護者面談	ト ○各高等学校との中3担任と高1担任による引き継ぎ (個別の教育支援計画の受け渡し) 引き継ぎを行う際に、通常学級生徒に在籍する支援が必要な生徒の個別の指導計画の作成の流れがあいまいなため、口頭引き継ぎであったり、特別支援教育の視点ではない引き継ぎとなりがちである。 ○個別の学校見学の実施 ○個別の教育相談の実施	ニ
	イ ○発達支援 気になるお子さんについてアセスメントシートを導入し、発達支援センター等による支援者支援を行っている。 業務負担が大きく、全件には対応できない。 ○保健・医療との連携 ・乳幼児健診前後の情報共有等(月1～4)	キ ○就学児童引き継ぎ ・口頭のみで行われている。 ・保育士、新1年担任、コーディネーター、保健師、(特別支援担任)が同席。 ・各々メモをとるが、学校には記録が残っていない。 ・小学校で求められる姿(生活・学習面)と、保育所での姿にズレがあり、入学してから支援を必要とする児童も多い。 ・小学校から保育所に知りたい情報の項目を伝え、それに対しての資料を作成してもらえると、入学後に活用できるのではないかと思う。 (10分以上座っていられるか・口をはさまずに最後まで話を聞けることができるか・指示を聞いて行動ができるか・交友関係の構築面・保護者など) ○保育所訪問、幼稚園訪問 ○就学健診(知能検査、視力・聴力検査) ○就学時健康教育相談 ○教育委員会 ○雄武町特別支援教育連携協議会専門部会(年4回)	コ ○特別支援学級担当者打合せ(特支援担任・支援員) ○日々の学習、行動の記録 ○児童との教育相談 ○学力テスト、知能検査、Q-U ○生徒指導交流(情報交流：校内) ○校内支援委員会 ○ケース会議 ○巡回相談の案内 ○家庭訪問、学級懇談 ○雄教振生徒指導委員会 ○雄教振中高連携委員会 ○個別の指導計画	セ ○雄武町特別支援教育連携協議会専門部会(年4回) ○小中交流会 ○教育委員会	タ ○学校主催の関係機関とのケース会議 ○健康推進課主催のケース会議 学校に必要な人材が参加できていなかったり、会議までの手続きが曖昧で「対象決定基準」「どの程度の情報を必要とするか」「会議の目的が何か」が校内で共有できていない。	テ	ネ
レベルⅡ (1～数回/週、月) 専門療育的支援	ウ	キ	コ	セ	チ	ナ	ネ
	エ	ケ	ク	ス	ソ	ト	ニ
レベルⅢ 医療的支援	オ	カ	コ	セ	チ	ナ	ネ

保育所や学校の現場では、
「日常生活水準×継時的インターフェース」の
課題が多く出されました。

3 地域の支援連携体制における課題の明確化

○就学児童に関する引継ぎ

<保育所>

- ・ 小学校が求めている情報がわからないので、何を伝えればよいか曖昧。
 - ・ 各家庭での考え方や子どもとの向き合い方が違う中、悩みながら集団生活に目を向けた関わりをもっている。それらを就学時健診前のシート提出や専門部会での情報共有、保育要録の提出、年度末に学校と対面で申し送りを行うことで連携と考えている。
- ※ 個別の状況を見捨てて無理やり頑張らせるようなことはしたくないが、入学後のギャップで子どもたちが困るであろうことを思うとどこを目指すべきかわからない…。

<小学校>

- ・ 引継ぎは口頭のみで行われており、各々メモをとるが学校には記録が残っていない。
 - ・ 小学校で求められる姿（生活・学習面）と、保育所での姿にズレがあり、入学してから支援を必要とする児童も多い。
 - ・ 小学校から保育所に知りたい情報の項目を伝えただけで資料を作成してもらえると、入学後に活用できるのではないか。
- （例）10分以上座っていただけるか ・ 口をはさまずに最後まで話を聞くことができるか
指示を聞いて行動ができるか ・ 交友関係 ・ 健康面 ・ 保護者など

3 地域の支援連携体制における課題の明確化

保育所・幼稚園から小学校への引継ぎ機会は充実していると思っていたが、就学後の支援に有効な情報となっていない実態があった。



引き継ぐ情報の精査や、確実に蓄積される記録の仕組みの明確化が必要

保育所・幼稚園で目指す姿と、小学校入学時に求められる姿が合致しておらず、入学後の負担が大きくなっている。



発達にも学ぶ力にも個人差が大きい幼児期と小学生のつなぎ目において支援者が「これまで」と「これから」を相互に見通せる連携体制が必要

4 取組の内容

○ 専門性の向上に向けた取組

実施年月日	内 容	参加者等
令和3年 6月30日 7月 1日	▶ 困り感をもつ児童に対するアセスメントの視点や支援の手立て等を学ぶ 発達検査、個別相談、支援者相談 (助言者：発達障害者支援センター「きら星」丸山所長)	相談を希望する小中学校児童・生徒、保護者、学校教員等
令和3年11月11日	▶ 発達障害に関する基礎知識獲得を目的とした研修 (講師：発達障害者支援センター「きら星」丸山所長)	子育て支援センター、保育所、児童センター、小学校、中学校、高校、地域活動支援センター、地域包括支援センター、教育委員会、健康推進課、教育長、副町長
令和3年12月 8日	▶ 雄武小学校特別支援学習会 (講師：オホーツク教育局義務教育指導班 指導主事大平氏、小清水中学校教諭 山下氏)	小学校、中学校

学習会後のアンケートから、「情報共有・連携」に関する様々な意見をきくことができました。

- ・ **できるだけ早く**に子供の困難性に注目し、他機関と連携して支援していくこと。
- ・ **共通言語化**するということ。
- ・ 支援者の共通の見立てが大切。
- ・ **保育所との連携**の大切さ。
- ・ 一貫した支援の難しさを改めて感じました。
- ・ **支援は具体的な方法を計画に記載し、誰でもできるように**しておくこと。
かつ自立を目指す内容となっていること。
- ・ 支援計画に書く内容については講師の言う通り、**引継ぎの資料となりうるものに**しなければならないと考える。
- ・ 本来であれば**指導、支援計画については様式を町で統一する必要**があり、各校によってバラバラなのは引き継ぎ上おかしい。
- ・ 支援を要する園児、児童、生徒の行動や認知の特徴が幼、保、小中高の引継ぎの際にしっかりと伝えられているのか考えさせられた。
- ・ 児童期がとても大切だとおっしゃっていたが**保育所からの情報が保護者も学校もほぼない**ことは大きな課題だと思う。

令和3年度 障がい児等支援連携体制整備事業
(発達障がい支援成果普及事業) 学習会

長期の見通しをもった 一貫性のある支援の大切さ

発達障害者支援道東地域センターきら星
丸山 芳孝

令和3年11月11日(木) 雄武町



4 取組の内容

○ 効果的な引継ぎの工夫

実施年月日	内 容
令和4年 4月26日	▶雄武小学校児童・保護者・支援者支援（丸山所長）
7月 7日	▶会議（事業の方向性、Q－S A C C Sシート作成）
9月14日	▶書面会議（進捗状況共有）
9月28日	▶会議（課題と取組の方向性について共有）
12月16日	▶会議（引継に必要な情報の共有、様式の検討、引継に関する年間スケジュールの確認）
令和5年2月15日	▶会議（引継様式、運用方法、役割分担の確認）
3月	▶引継会議（様式を用いた引継ぎの実践）

雄武小学校作成（案）

チェックリストC

【引継ぎ資料】

《気になる子に△をつけてください》

[illegible]

チェックリストB

個別シート（記載例）

視察委員何人何人がチェックをつけたか、人数を記入する。
視察当日に欠席の場合は何も記入しない。

児童氏名
雄武 太郎

領域	番号	チェック項目	視察 チェック数	8～9月頃				2～3月頃				備考
				ない	まれに	時々	よく	ない	まれに	時々	よく	
感覚	1	視覚/眩しがる。ゆびに没頭する。など	0/6									約半年で変化がある部分について記載する。
	2	聴覚/耳を塞ぐ。特定の音を嫌がる・大音量にしたがる。など	1/6			✓		大きい音、大勢の音が苦手で耳をふさぐ				
	3	触覚/服の素材や食べ物のお感へのこだわり	0/6									
	4	味覚/苦しい偏食。特定の味を好む。同じものばかり食べる。など	3/6				✓	甘味、酸味が特に苦手で果物は食べない				
	5	嗅覚/刺激臭を好む。特定の臭いを極端に嫌う。など	0/6									
	6	前庭覚/揺れを怖がる。いくら回転しても目がまわらない。など	0/6									
認知・記憶	7	同時にたくさんのができない(ひとつつづ順番にしかできない)	5/6				✓	コップやおしぼりなど複数の持ち物を片付けるときは、1つつづ運ぶ。				
	8	今聞いたことをすぐに忘れてしまう	5/6				✓	口頭の言葉は覚えにくいため、行事など音段と質なる動きをする日には移動する場所や持ち物の写真を使った進行表を掲示し、忘れたら見て確認できるようにしている。				
注意・多動	9	活動に集中できない。長く続けることができない	5/6				✓	絵を描くなど苦手なことは、だんだん飽きて途中で「できた」と終わらせる。				
	10	終われない/切り替えが苦手/強い集中	1/6			✓		ブロック遊びでは過集中の傾向がみられ、個別に終了の声をかけをしている。				
	11	質問が終わらない内に、出し抜けに答えてしまう	0/6		✓							
	12	他の人がしていることを盗る。邪魔する	0/6			✓		ブロックなど他の人が使っていても自分が使いたいと横からとってしまうので、1人分がわかるようにカゴに入れて用意している。				
運動	13	不器用(力が入り過ぎたり、入らなすぎたりするなど)	2/6				✓	クレヨンやフォークは下手持ちだが手全体で握るため、細かい動作はまだ苦手。		✓		指先の運動は分化が進んだが、手の平の筋肉が未熟でつまむ動作は苦手なため、細い鉛筆にはグリップをつけて持ちやすいよう配慮している。
	14	跳びはねる、ロッキング、回転など、動きが多い	6/6				✓	椅子に座っていても傾けたり、揺れたりして常に体を動かしているほうが落ち着く様子。				
	15	姿勢が悪い(良い姿勢の維持が困難)	4/6				✓	姿勢が崩れてきたときは足の裏を床につけ、お腹と背中に手を当てて力を入れる場所を意識させると良い姿勢をつくることができる。		✓		姿勢を保てる時間が長くなった(5分ほどの朝の会の間は保っていられる)。
聞く	16	個別に言われたと聞き取れるが、集団場面では難しい	4/6				✓	周りの声や動きが刺激となり指示への注目が難しいため、個別に伝えている。				
	17	指示の理解が難しい	2/6	✓				場合によって視覚情報とあわせて伝えれば指示理解はできる。				
話す	18	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	0/6			✓		出来事を確認するときには、「誰が」「どうして」と聞くと状況を説明できる。				
	19	話し相手に内容をわかりやすく伝えることが難しい	0/6			✓		年齢相応のわりにくさはあるが、伝えようとする意欲があり、「～みたいに」など表現を工夫できる。時の表現が未熟なため、いつの話なのかわかってあげられないことがある。		✓		話象数が増えたことで伝わりやすくなった。「前」「今度」など過去と未来の表現ができるようになった。
対人・社会性	20	その時の場面や相手の感情や立場を理解しない	1/6		✓			その場ですぐには理解が難しいが、落ち着いてから丁寧に話すことで理解できる。				
	21	仲の良い友達がない、孤立している	3/6				✓	仲が良い特定の友達はいない。		✓		1～2人、同じようなことを好む特定の他児と一緒に遊ぶときもある。
	22	友達と仲良くしたい気持ちはあるが関係がうまく築けない	2/6		✓			興味のある遊びをしている小集団に関心を示すことがあるが、輪に入っていくことはせず外側から見ていることが多い。				
	23	周りの人が困惑するようなことも配慮しないで言ってしまう	3/6			✓		本人の中でブームになっている言葉を場面に問わず発するため、周りが驚くことがある。		✓		本人の状況は変わらないが、周囲が慣れてきた。
読書き	24	自分の名前の読み書きができる	1/6			できる・できない		読むことはできない。自分の名前はマークとセットならわかる。 書くのは見本があればやろうとするが、細かな丸みのあるラインを書くのが難しい。		できる・できない		一文字ずつ指で追ってゆっくり読むことができる。おたより紙の返却当番の経験で、自分の名前やクラスの子の名前は形として判別できるようになっている。 自分の名前は見本を見ながら書くことができるが、断全体の動作で書くため大きな字になる。
健康・生活								特記事項				内容
	25	排遣(失禁・声かけの必要性・後始末・不安 など)				あり	なし	遊びに夢中になると尿失禁することがあるので声をかけていた		あり		なし
	26	食事(偏食・箸の持ち方・時間がかる など)				あり	なし	好き嫌いが多く、嫌いなものは食べ進まないため食事に時間がかかる		あり		なし
	27	更衣(チャックやボタン・上着の着脱 など)				あり	なし	小さなチャックを下げる操作が難しく、上着を脱ぐときは要支援		あり		なし
	28	健康面(アレルギー・持病・服薬 など)				あり	なし	便秘のため毎食後服薬あり		あり		なし
	29	保護者支援の必要性(お知らせの方法や伝え方の工夫 など)				あり	なし	忘れ物が多いため、持ち物があるときには前日に連絡帳で伝えていた		あり		なし
	30	交友関係(配慮していたこと)				あり	なし	〇〇さんと一緒にテンションが上がってしまうので声をかけるようにしていた・席を離れていた		あり		なし

好きなこと・得意なこと

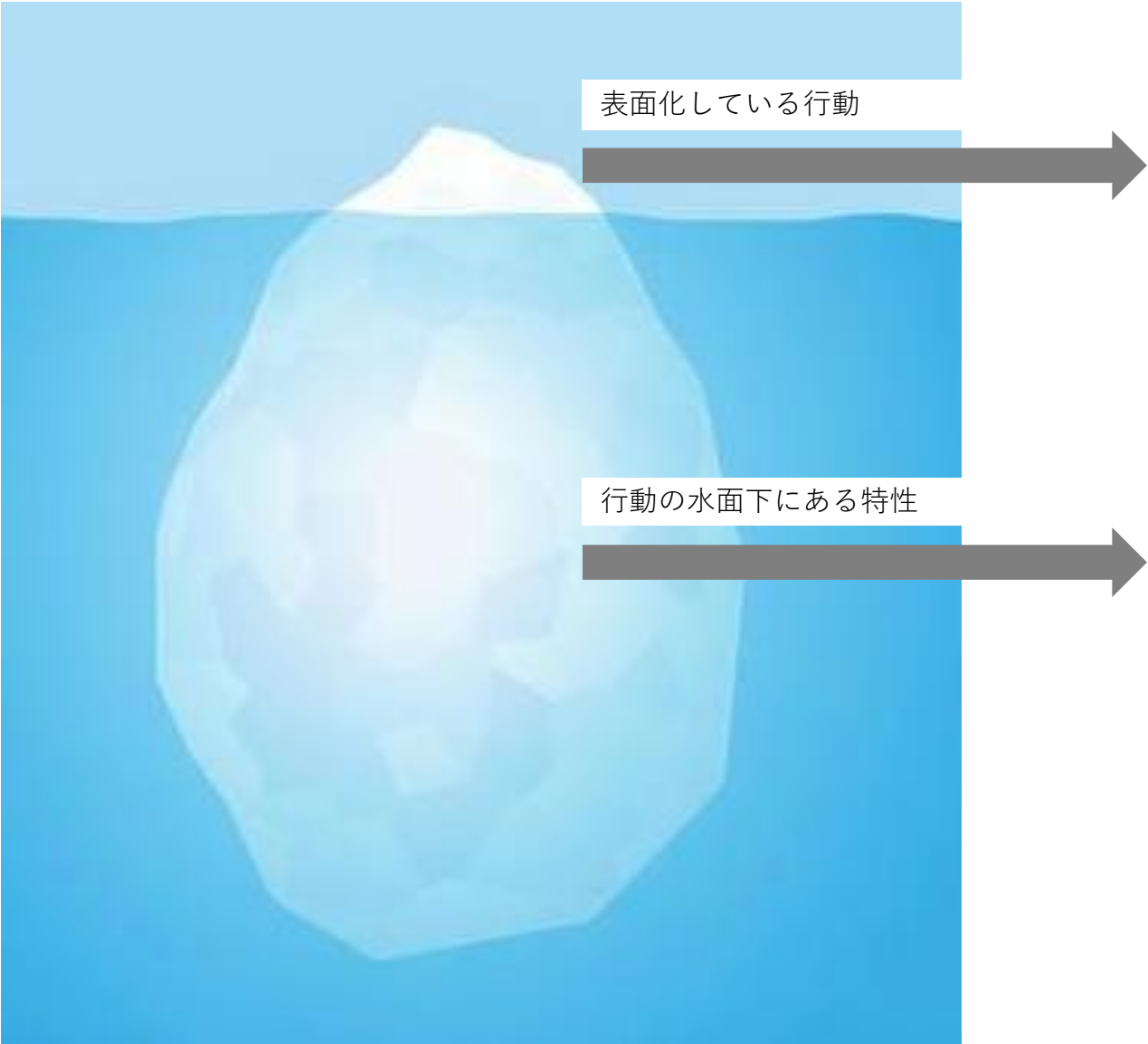
ブロック遊びが好き。形の判別が得意。細部の変化に気づく能力が高い(反面、不安になりやすいためいつもと違うこと等に関しては都度解決できるよう対応が必要)。

保護者と保育所との相談歴

あり・なし

いつ：年少～
誰から誰に：最初は年少時の担任保育士から母親に。その後は相互に発信している。
どんな：落ち着きのなさ、指示の通りにくさについて。
相談の結果：保育所での様子を伝え、3歳児健診での相談につながるよう保健師にも情報共有する旨同意を得た。家庭での困り感も表出され、その後は作業療法士の相談や心理相談等専門相談につながっている。
保護者は忘れっぽさがあるが無関心なわけではなく、書面で伝えることで持ち物など対応してくれている。

2つのチェックリストの使い分け



【引継ぎ資料】

《気になる子に△をつけてください》									
名前	自分の名前の読み書きができるか	十分以上同じ活動を続けられるか	話を聞けるか	口をはさまずに最後まで指示を聞いて行動ができるか	活動指示を聞くの切り替えができるか	困った時に状況を言うことができるか	人前で話す・発表ができるか	こだわりの強さによる困りごとがあるか	【その他】 ○交友関係・健康面・特性 衣食排泄・保護者関係 などで心配なこと ○好きなこと・得意なこと ○支援が必要だった事柄
									育ちの手帳の有無 (作成予定があるか)

領域	項目	チェック項目	観察 回 数	8～9月頃					備考	2～3月頃					備考
				ない	まれ	時々	よく			ない	まれ	時々	よく		
感覚	1	視覚/聴しがる。わがやに没頭する。など	/												
	2	聴覚/耳を塞ぐ。特定の音を嫌がる・大音量にしたがる。など	/												
	3	触覚/服の素材や食べ物の食感へのこだわり	/												
	4	味覚/香しい偏食。特定の味を好む。同じものばかり食べる。など	/												
	5	嗅覚/刺激臭を好む。特定の臭いを極端に嫌う。など	/												
	6	前庭覚/揺れを怖がる。いくら回転しても目がまわらない。など	/												
注意・多動	7	同時にたくさんすることができない(ひとずつ順番にしかできない)	/												
	8	今聞いたことをすぐに忘れてしまう	/												
	9	活動に集中できない。長く続けることができない	/												
運動	10	終われない/切り替えが苦手/強い集中	/												
	11	質問が終わらない内に、出し抜けて答えてしまう	/												
	12	他の人がしていることを逆。邪魔する	/												
聞く	13	不審用(力が入り過ぎたり、入らなすぎたりするなど)	/												
	14	跳びはねる、ロッキング、回転など、動きが多い	/												
	15	姿勢が悪い(良い姿勢の維持が困難)	/												
話す	16	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい	/												
	17	指示の理解が難しい	/												
	18	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	/												
対人・社会性	19	話し相手に内容をわかりやすく伝えることが難しい	/												
	20	その時の場面や相手の感情や立場を察知しない	/												
	21	仲の良い友達がない。孤立している	/												
読書き	22	友達と仲良くしたい気持ちはあるが関係をうまく築けない	/												
	23	周りの人が困るようなことも配慮しないで言ってしまう	/												
	24	自分の名前の読み書きができる	/												
健康・生活				特記事項		内容		特記事項		内容					
	25	排泄		あり	なし			あり	なし						
	26	食事		あり	なし			あり	なし						
	27	更衣		あり	なし			あり	なし						
	28	健康面		あり	なし			あり	なし						
	29	家庭環境		あり	なし			あり	なし						
	30	交友関係		あり	なし			あり	なし						

チェックリスト A

チェック項目のうち、該当すると思われる生徒の出席番号に「✓」を記入し、「✓」の数を領域（例「聞く」）ごとに合計してください。

領域	番号	チェック項目	出席番号																									合計
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
感覚	1	視覚/眩しがる。キラキラに没頭する。など																										
	2	聴覚/耳を塞ぐ。特定の音を嫌がる・大音量にしたがる。など																										
	3	触覚/服の素材や食べ物の食感へのこだわり																										
	4	味覚/著しい偏食。特定の味を好む。同じものばかり食べる。など																										
	5	嗅覚/刺激臭を好む。特定の臭いを極端に嫌う。など																										
	6	前庭覚/揺れを怖がる。いくら回転しても目がまわらない。など																										
認知・記憶	7	同時にたくさんのができない(ひとつずつ順番にしかできない)																										
	8	今聞いたことをすぐに忘れてしまう																										
注意・多動	9	活動に集中できない。長く続けることができない																										
	10	終われない/切り替えが苦手/強い集中																										
	11	質問が終わらない内に、出し抜けに答えてしまう																										
	12	他の人がしていることを盗る。邪魔する																										
運動	13	不器用(力が入り過ぎたり、入らなさすぎたりするなど)																										
	14	跳びはねる、ロッキング、回転など、動きが多い																										
	15	姿勢が悪い（良い姿勢の維持が困難）																										
聞く	16	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい																										
	17	指示の理解が難しい																										
話す	18	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい																										
	19	話し相手に内容をわかりやすく伝えることが難しい																										
対人・社会性	20	その時の場面や相手の感情や立場を理解しない																										
	21	仲の良い友達がいらない、孤立している																										
	22	友達と仲良くしたい気持ちはあるが関係をうまく築けない																										
	23	周りの人が困惑するようなことも配慮しないで言うってしまう																										
読書き	24	自分の名前の読み書きができる																										

児童は番号で一覧になっており、それぞれの委員が気になる子の気になる項目にチェックをつけます。

令和 5 年度の取組

チェックリストを一連の流れで運用してみる

運用しながら必要な更新をかけていく

時 期	やること	担当者	使う資料
6月	引継ぎ方法の確認	専門部会	※一連の流れを確認する。
7～8月	幼保視察	視察委員（視察・チェック記入） → 教育委員会（回収）	チェックリスト A
8月	視察委員チェック集計	教育委員会（集計・集計結果記入） → 幼稚園・保育所	チェックリスト A・B
8～9月	幼保チェック①	幼稚園・保育所（記入）	チェックリスト B
9月	引継ぎ方法・進捗状況確認	専門部会	
9～10月	就学時健診事前資料作成	幼稚園・保育所（コピー提出） → 教育委員会	チェックリスト B
2月	引継ぎ方法・進捗状況確認	専門部会	
2～3月	幼保チェック②	幼稚園・保育所（記入） 保健係（育ちの手帳の有無確認）	チェックリスト B・C
3月末	担任間引継ぎ	幼稚園・保育所 ⇄ 各学校	チェックリスト B・C

残された課題

幼児期と小学校の円滑な接続

⇒ 支援者同士の顔が見える機会をもつ。

保育指針や学習指導要領をベースに、「これまでの育ち」と
「これからの育ち」への相互理解の促進を図る。